香芝市職員昇任候補者資格試験制度要綱の一部を改正する要綱を次のように定める。

令和7年7月28日

香芝市長 三 橋 和 史

香芝市職員昇任候補者資格試験制度要綱の一部を改正する要綱
香芝市職員昇任候補者資格試験制度要綱（令和6年訓令乙第2号）の一部を次のように改正する。
次の表の現行欄に掲げる規定を、同表の改正案欄に掲げる規定に傍線で示すように改正する。

改 正 案	現 行
<p style="text-align: center;"><u>香芝市職員昇任候補者資格試験実施要綱</u></p> <p>（目的）</p> <p>第1条 この要綱は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第15条の<u>規定による任用の根本基準に基づき、職員の職務遂行能力に応じて公平に昇任できる機会を与え、試験を実施することにより昇任候補者資格を取得させ、もって能力の実証による任用に資することを目的とする。</u></p> <p>（試験の種類）</p> <p>第2条 [略]</p> <p>（1） [略]</p> <p>（2） 保育士等3級昇任候補者資格試験 給与条例別表第2に規定する3級の職務の級の保育士<u>又は</u>幼稚園教諭としての適性を認定するために行う試験</p> <p>（3）・（4） [略]</p> <p>（受験者）</p> <p>第3条 [略]</p> <p>（1） 香芝市職員3級昇任候補者資格試験及び保育士等3級昇</p>	<p style="text-align: center;"><u>香芝市職員昇任候補者資格試験制度要綱</u></p> <p>（目的）</p> <p>第1条 この要綱は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第15条の任用の根本基準に基づき、職員の職務遂行能力に応じて公平に昇任できる機会を与え、<u>昇任試験を実施することにより昇任候補者資格を取得せしめ、よって能力の実証による任用に資することを目的とする。</u></p> <p>（試験の種類）</p> <p>第2条 [略]</p> <p>（1） [略]</p> <p>（2） 保育士等3級昇任候補者資格試験 給与条例別表第2に規定する3級の職務の級の保育士<u>及び</u>幼稚園教諭としての適性を認定するために行う試験</p> <p>（3）・（4） [略]</p> <p>（受験者）</p> <p>第3条 [略]</p> <p>（1） 香芝市職員3級昇任候補者資格試験及び保育士等3級昇</p>

改正案

任候補者資格試験（以下「3級試験」という。） 給与条例別表第2に規定する2級の職務の級の職員として2年6月

(2) 香芝市職員4級昇任候補者資格試験及び保育士等4級昇任候補者資格試験（以下「4級試験」という。） 給与条例別表第2に規定する3級の職務の級の職員として1年6月

2 [略]

香芝市の職員の初任給、昇格、昇給等に関する規則（平成10年規則第20号）第10条及び第12条の規定による初任給決定時に加算された経験年数	3級試験 給与条例別表第2に規定する2級の職務の級の職員として必要な在級年数	4級試験 給与条例別表第2に規定する3級の職務の級の職員として必要な在級年数
[略]	[略]	[略]
3年以上	6月	6月

3 第1項の市長が適当と認めるものには、次に掲げる者は該当しないものとする。

(1) 第6条第1項の規定による試験の実施日又は同条第4項の規定による作文の提出期日前1年以内に地方公務員法第28条第2項第2号の規定により刑事休職処分を受けた者

(2) 第6条第1項の規定による試験の実施日において、病気休暇等長期の休暇、病気休職その他の事由により試験を受験できないことが明らかな者

現行

任候補者資格試験 給与条例別表第2に規定する2級の職務の級の職員として2年6月

(2) 香芝市職員4級昇任候補者資格試験及び保育士等4級昇任候補者資格試験 給与条例別表第2に規定する3級の職務の級の職員として1年6月

2 [略]

香芝市の職員の初任給、昇格、昇給等に関する規則（平成10年規則第20号）第10条及び第12条の規定に基づく初任給決定時に加算された経験年数	香芝市職員3級昇任候補者資格試験及び保育士等3級昇任候補者資格試験 2級の職務の級の職員として必要な在級年数	香芝市職員4級昇任候補者資格試験及び保育士等4級昇任候補者資格試験 3級の職務の級の職員として必要な在級年数
[略]	[略]	[略]
3年	6月	6月
4年	6月	6月
5年以上	6月	6月

改正案

(3) 病気その他の事由（育児休業又は公務災害により休業した場合を除く。）により試験基準日前1年間において6月以上勤務していない者

(受験のための手続)

第4条 受験者は、香芝市職員任用試験委員会（以下「委員会」という。）が定める期日までに、昇任試験受験申込書に所定の事項を記入の上、受験者の属する部課室の部長、次長、課長及び室長（以下「部課室長」という。）を經由して委員会に申し込み、受験票の交付を受けるものとする。

(試験の方法)

第5条 [略]

[略]	[略]
3級試験	[略]
4級試験	(1) 第1次試験 <u>短答式試験、論文試験及び勤務成績の総合評価</u> (2) [略]

2 作文試験は、論理的判断力及び文書事務能力を測るものとする。

3 短答式試験、論文試験及び面接試験は、論理的判断力、文書事務能力及び法的能力を測るものとする。

(試験実施日等)

第6条 4級試験は、毎年度1回委員会が定める日（以下「試験実施日」という。）に実施する。

現 行

(受験のための手続)

第4条 前条の受験者は、委員会が定める期日までに、昇任試験受験申込書に所定の事項を記入の上、受験者の属する部局課室の部長、次長、局長、課長及び室長（以下「部局課室長」という。）を經由して香芝市職員任用試験委員会（以下「委員会」という。）に申し込み、受験票の交付を受けるものとする。

(試験の方法)

第5条 [略]

[略]	[略]
<u>香芝市職員3級昇任候補者資格試験及び保育士等3級昇任候補者資格試験</u>	[略]
<u>香芝市職員4級昇任候補者資格試験及び保育士等4級昇任候補者資格試験</u>	(1) 第1次試験 <u>筆記試験、作文試験及び勤務成績の総合評価</u> (2) [略]

(試験実施日等)

第6条 香芝市職員4級昇任候補者資格試験及び保育士等4級昇任候補者資格試験は、毎年度1回委員会が定める日（以下「試験

改正案	現 行
<p>2 <u>4級試験の受験者が次の各号のいずれかに該当する事由により受験できないときは、昇任候補者資格試験欠席承認書を委員会に提出しなければならない。</u></p> <p>(1) <u>受験者の3親等以内の親族が死亡した場合で、受験者がその葬儀に参列等するとき。</u></p> <p>(2) <u>受験者が病気休暇若しくは病気休職中の場合又は試験実施日において疾病若しくは事故により受験できない場合で、診断書等により欠席事由が証明できるとき。</u></p> <p>(3) <u>地震、水害、火災その他の災害により、受験者の現住居が滅失し、又は損壊した場合で、復旧作業等のため受験できないとき。</u></p> <p>(4)～(6) [略]</p> <p>3 <u>4級試験における第1次試験の受験者が前項各号に掲げる事由により受験できなかった場合は、試験実施日から7日を超えない範囲で委員会が指定する日に追加試験を実施する。</u></p> <p>4 <u>3級試験は、毎年度1回委員会が定める期日までに委員会の指定する様式により、作文を提出するものとする。</u></p> <p>(受験者に対する指導)</p> <p>第7条 <u>部課室長</u>は、受験者に対し、次の指導等をしなければならない。</p>	<p>実施日」という。)に実施する。</p> <p>2 <u>前項に規定する試験の受験者が次の各号に掲げる事由により受験できないときは、昇任候補者資格試験欠席承認書を委員会に提出しなければならない。</u></p> <p>(1) <u>受験者の3親等以内の親族が死亡したときで、受験者がその葬儀又は服喪に出席する場合</u></p> <p>(2) <u>受験者が、病気休暇若しくは病気休職中の場合又は試験実施日において疾病若しくは事故により試験を受けることができない場合で診断書等により欠席事由が証明できる場合</u></p> <p>(3) <u>地震、水害、火災その他の災害により、受験者の現住居が滅失し又は損壊したときで、復旧作業等のため受験できない場合</u></p> <p>(4)～(6) [略]</p> <p>3 <u>第1項に規定する試験における第1次試験の受験者が前項各号に掲げる事由により試験に欠席した場合で、やむを得ないと認められるときは、委員会が別に指定する課題について、指定用紙(800字)に5枚以上の作文を提出し、その内容が良好と認められる場合は、第1次試験を受験したものとみなす。ただし、第1次試験の成績は、合格基準に達しないものとして取り扱う。</u></p> <p>4 <u>香芝市職員3級昇任候補者資格試験及び保育士等3級昇任候補者資格試験は、毎年度1回委員会が定める期日(以下「提出期日」という。)までに当該委員会の指定する様式により、作文を提出するものとする。</u></p> <p>(受験者に対する指導)</p> <p>第7条 <u>部局課室長</u>は、受験者に対し、次の指導等をしなければならない。</p>

改正案

- (1)・(2) [略]
 (3) 試験実施日に受験できるよう業務について十分配慮すること。
 (4) 勤務時間中に試験のための学習をすることがないよう職務に専念させること。
(合否等)

第8条 試験の合否は、市長が別に定める基準により委員会が決定し、合格した者を昇任候補者とする。
 2 不合格となった受験者は、合格することとなるまで毎年度受験することができる。

現 行

- (1)・(2) [略]
 (3) 試験実施日に試験を受けられるよう業務について十分配慮すること。
(その他)

第8条 試験の合否は、市長が別に定める基準により委員会が決定し、合格点に達することとなった者を昇任候補者とする。
 2 この要綱による試験の受験者で、合格点に達することとならないものは、合格点に達することとなるまで毎年度受験することができる。
 3 筆記試験の成績については、次の表に定めるところにより加点して評価することができるものとする。

加点対象	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>5</u>	<u>6</u>	<u>7</u>	<u>8以上</u>
受験回数								
加点数	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>2</u>	<u>4</u>	<u>6</u>	<u>10</u>	<u>14</u>	<u>18</u>

4 第3条第1項の市長が適当と認めるものには、次に掲げる者は該当しないものとする。
 (1) 試験実施日又は提出期日前1年以内に懲戒処分、降任処分又は刑事休職処分を受けた者
 (2) 試験実施日又は提出期日において懲戒処分の決定を受けていないが、懲戒処分に相当する非違行為を行ったことが明らかである者
 (3) 試験実施日において、病気休暇等長期の休暇、病気休職又はその他の休業事由により試験を受験できないことが明らかなる者

改正案	現 行
<p><u>(その他)</u> <u>第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。</u></p>	<p><u>(4) 病気その他の事由(育児休業又は公務災害により休業した場合を除く。)により試験基準日前1年間において6月以上勤務に携わっていない者</u> <u>5 前項の規定により、受験資格が認められない者は、試験を受験しなかったものとして取り扱う。</u> <u>6 この要綱の実施に関し疑義が生じた場合は、市長はその都度勘考の上決定するものとする。</u></p>

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。